

2023年度 施策マネジメントシート【2022年度実績評価】

作成: 2023年5月31日

施策番号 3-2-1	施策名 安心して生み育てることができる子育て支援	対象 町民	基本目標 誰もが健康で自分らしく笑顔で暮らせるまちづくり
			政策名 安心して子育てできるまちづくり
	主管課 子育て支援課	課長名 佐々木 雅之	内線 168
	施策関係課		

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意図				結果		
妊娠・出産、子育てに関する悩み・不安の解消と地域社会の理解を深めることにより、まち全体による子育て支援体制の充実を図ります。		町民	・妊娠、出産及び子育てに対する不安や悩みを解消する ・子育てに対する地域社会の理解を深める				子育ての支援体制が充実し、安心して生み育てることができる		
成果指標	説明		単位	策定時(2017実績)	2019年度実績	2020年度実績	2021年度実績	2022年度実績	2022年度目標
① 育児が楽しいと感じる親の割合	乳幼児健診アンケート	%	87.6	87.0	87.6	90.0	88.5	90.0	
② 安心して子育てができる環境であると思う町民の割合	住民意識調査	%	96.5	87.9	89.0	88.6	89.7	90.0	
③									
④									
成果指標設定の考え方	①は、乳幼児健診の際に実施する保護者アンケートの結果を成果指標として設定。 ②は、町民を対象とした住民意識調査の結果を成果指標として設定。 (※住民意識調査の回答項目を5択→4択に変更)								

2. 施策の事業費

	2018年度決算	2019年度決算	2020年度決算	2021年度決算	2022年度決算
施策事業費 (千円)	398,394	421,675	403,504	407,048	406,905
人工数(業務量)	11.2733	10.2842	8.2992	7.9906	8.5665

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①2022年度の成果評価(前年度との比較)	<input checked="" type="checkbox"/> 成果は向上した <input type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	・成果指標①は、微減 ・成果指標②は、微増 ・令和4年度より、不妊治療費助成拡大、出産子育て応援交付金支給開始(いずれも妊婦等相談支援事業)
②第5期総合計画前期実施計画の最終的な目標達成状況	<input type="checkbox"/> 目標は達成できた <input checked="" type="checkbox"/> 目標は概ね達成できた <input type="checkbox"/> 目標は達成できなかった	根拠(理由)	・成果指標は惜しくも目標値に届かなかったものの、計画期間全体として高水準を維持している ・子育て世代包括支援センター、産前産後相談室、子育て支援センター、発達支援システムを通じた不安を解消し、楽しく子育てする相談体制が充実している ・前期計画期間において、デイサービス型の産後ケア事業、産前・産後ヘルパー派遣事業、不妊治療費助成拡大、屈折検査機器の検査導入、地域コーディネーター複数配置、新生児聴覚検査費用助成を実現した
(2) 施策の成果評価に対する第5期総合計画前期実施計画の事務事業総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	子ども医療費給付事業 子育て支援センター運営事業 子育て世代包括支援センター運営事業 発達支援センター運営事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
③事務事業全体の振り返り(総括)	・「子ども医療費給付事業」→平成31年4月から所得制限を撤廃し、中学生までの医療費全額助成を実施 ・「子育て支援センター運営事業」「子育て世代包括支援センター運営事業」→妊娠期から子育て期に渡るまでの様々な悩みを相談でき、必要な支援を行う体制を充実させた ・「発達支援センター運営事業」「児童発達支援給付事業」→発達に支援の必要な児童に対して、早期から専門的療育を行うとともに、障がい児通所支援事業の利用者負担額を助成し推進した		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果(計画策定時との比較)							
担当課 評価	前期実施計画策定からこの間、以前から実施してきた取り組みの対象拡大や利用者目線の見直しに加え、新たな取り組みを毎年度のように実施し、支援体制の充実を図った。子ども医療費助成の更なる対象拡大や(仮称)キッズスペース整備の道筋を立てた。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		
A:実現した B:(前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C:(前期実施計画策定時と比較して)前進した D:(前期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した E:(前期実施計画策定時と比較して)後退した							

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	国は、令和4年度第2次補正予算において、出産子育て応援交付金を創設し、妊娠届出時から2歳までの低年齢期の子育て世帯に寄り添う目的で、伴走型相談支援と経済的支援を一体的に行う取り組みを市町村事業として位置付け、本町も本年2月より事業を開始している。 政府は3月末に少子化対策のたたき台を策定し、2024年度から3年間で行う加速化プランを示している。そのなかでは、「次元の異なる少子化対策」の柱として、児童手当の支給対象拡大などが盛り込まれている。
この施策に対して住民・審議会・議会からどのような意見や要望が寄せられ、どのように改善したか。	・「安心して子育てできるまちづくりについて」として、令和4年芽室町議会9月定例会議において、一般質問を受けている ・「発達障がいへの理解を深め誰もが安心して暮らし続けられるまちづくりについて」として、令和4年芽室町議会12月定例会議において、一般質問を受けている

5. 施策の課題認識(現状の課題、第5期総合計画後期実施計画期間において新たに取り組むべき課題)

・後期実施計画に合わせて、子ども医療費給付事業の町独自助成対象年齢を15歳から18歳に拡大しており、子育て世代の経済的負担軽減をさらに進めている ・後期実施計画や国動向、ニーズ調査の結果を踏まえて、令和7年度を開始期とする「第3期芽室町子ども・子育て支援事業計画」を策定する ・要保護児童対策事業において、ヤングケアラーの実態調査を実施する。対象の有無を把握するとともに、対象者が把握された場合は、ケアラー自身への支援を含めた世帯支援を行う ・発達支援システム推進事業において、発達障がいの早期の気づき、理解促進を促す啓発をさらに進める

6. 経営戦略会議(庁内評価)

評価	担当課評価同様に「前進した」と評価する。		A	B	C	D	E
今後の取組に対する意見	子ども・子育て支援事業計画策定について、幅広くニーズを把握し、課題に対してどのように進めていくか整理してください。	進捗結果			○		
		A:実現した B:(前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C:(前期実施計画策定時と比較して)前進した D:(前期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した E:(前期実施計画策定時と比較して)後退した					

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	発達支援制度が手厚いことや様々な住民ニーズに対応していることから「前進した」と評価する。		A	B	C	D	E
今後の取組に対する意見	・成果指標について、「施策の方針」に記載の「～地域社会の理解を深める」ということを図るために指標が必要である。 ・子育てを終えた方が地域で子育てを支えていくことが重要。町としてできることを検討してほしい。 ・子ども目線の事業の検討を進めてほしい。 ・子ども・子育て支援事業計画策定に関するニーズ調査はアンケートだけではなく、地域の声を直接聞いてほしい。	進捗結果			○		
		A:実現した B:(前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C:(前期実施計画策定時と比較して)前進した D:(前期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した E:(前期実施計画策定時と比較して)後退した					